

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践年度	H30年度
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	☒ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☐ 自立活動 ☒ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	明日の日程を書く
	授業の目標	「明日の日程」を正しい漢字を使って書くことができる。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	☒ 「知識及び技能」 ☐ 「思考力・判断力・表現力等」 ☒ 「主体的に学習に取り組む態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 健康の保持 ☒ 心理的な安定 ☐ 人間関係の形成 ☒ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☐ コミュニケーション
学習(集団)の実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☐ 小学生 ☒ 中学生 ☐ 高校生以降 ☐ 特定されない
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☒ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
子どもの実態	子どもの課題(特性・ニーズ)	☐ 聞く ☐ 読む ☒ 見る ☐ 話す ☒ 書く ☐ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ 日常生活活動 ☐ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☒ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 連絡帳に明日の日程を書く場面において「作業学習」や「美術」などの漢字を書くときに、「業」と「美」を混同して書いてしまうことがあり誤字が多かった。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	iPad アプリ「常用漢字筆順辞典」 (広告あり 無料、広告なし ¥600) 
	活用のねらい	A コミュニケーション支援(☐ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(☐ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C 学習支援(☒ C1教科学習支援 ☒ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援) よく混同してしまう漢字について、書き順の違いを意識して、正しい漢字を書くことができる。
	活用方法	連絡帳に明日の日程を書く場面において、書き間違えが多い文字「作業学習」や「美術」の漢字を書くときに、アプリで書き順を確認してから、連絡帳に記入する。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	最初のころは、間違った漢字を赤ペンなどを使って指導していたが間違いが減ることがなかった。そこでアプリを使った支援をすることで、生徒本人も意欲的に取り組むことができ、漢字の間違いが減ってきた。また、アプリの特徴である筆順も丁寧に覚えようとする様子が見られ、他の漢字についても興味を持って筆順を調べるようになった。
資料	図・写真・表等はこちらへ貼り付けてください。 (生徒の写真は特定できないよう加工して下さい。)	  